

聖徳殿の記録



- P1 築・百年の研修道場・聖徳殿を想う
- P5 聖徳殿のこれまで
- P6 研修道場・聖徳殿の各部屋
- P12 聖徳殿・お別れ講演会
- P12 月例行事(写佛教室／お写経)

継鹿尾観音 寂光院

大広間から眺めた報恩殿と木曾川



大広間崖側の廊下



1. 100周年 築・100年の研修道場・聖徳殿を想う

松平 實胤

一、聖徳太子 1,300年御遠忌記念建立・聖徳殿

当山には聖徳太子を御本尊とする「聖徳殿」がございます。

令和3年(2021年)は聖徳太子が推古30年(622年)に崩御されてより「1,400年御遠忌」に当たり、当山では御祥月命日の2月22日に聖徳殿で御遠忌法要を厳修いたしました。

この聖徳殿は大正10年(1,921年)、丁度100年前の「1,300年御遠忌」を記念して建立されました。

二、聖徳太子・孝養(きょうよう)像

ご本尊の聖徳太子像は聖徳太子が16歳のみぎり、ご尊父・用明天皇のご病氣平癒を祈られているお姿とされる孝養太子像です。時の寂光院山主・岩田大法大僧正は聖徳太子への尊崇の念篤く、17条憲法の第1条「和をもって貴しと為す」第2条「篤く三宝を敬え」をスローガンとして次代を担う青少年の研修道場建立を発願され、ここに宿泊のできる三層建の壮麗な建物が建立されました。1階は厨房並びに食堂、お手洗い、浴場、2階は寢所、3階が研修道場です。渡り廊下を挟んで別棟には報恩殿が建立されました。仏殿と、賓客用の寢所となっていました。

三、聖徳殿から戦後復興の担い手育つ

戦前戦中はまだ公営の研修センターなどない時代でしたから、犬山寂光院とえば、とにかく風光明媚な木曾川河畔の静寂な山寺ということで、愛知県を代表する宿泊研修道場として注目され、各方面各団体の研修が催されたと聞いております。聖徳殿から幾多の前途有為な青年が世に送り出され、戦後復興の担い手として各方面で活躍された方は枚挙に暇なく、愛知県を代表する錚々(そうそう)たる方々のお名前を見ることもできます。戦争末期には師範学校附属小学校(現愛知教育大学付属小学校)の疎開児童の教育並びに生活の場となりました。

伊勢湾台風で寂光院伽藍は壊滅（昭和 34 年）

戦後も真言宗僧侶の研修、宗教者の研修が頻繁に催され、各地の青年団の研修、青少年の集いなど、各分野を問わず、盛況だったそうです。しかし、昭和 34 年の伊勢湾台風は山の形を変えたという程の大災害に見舞われ、山寺の宿命で倒木の数おびただしく山上の本堂他、伽藍はほとんどが全半壊の状況で、古代建築に指定されていた庫裏は全壊し、風光明媚な尾張最古刹寂光院は世間から忘れ去られる憂き目にあったということです。幸いにも聖徳殿は倒壊は免れ、ここを拠点として時の山主・鬼頭法円僧正は復興に着手、艱難辛苦の末、半壊の本堂、全壊の庫裏を見事に復興されました。

四、聖徳殿大改修（昭和 49 年～50 年）

私は昭和 48 年 5 月に先代鬼頭法円僧正の後任として 26 歳で寂光院に普山しました。その経緯は晴天の霹靂としか言いようがありませんが、聖徳殿を案内されて驚きました。倒壊は免れたものの雨漏りがひどく、畳から草が生えている惨状を目の当たりにして絶望のあまり夜逃げを考える毎日でした。しかし、沢山の善意の人々のお陰で奮起を促され、大改修を決断しました。

五、宿泊研修を再開したものの、懺悔！懺悔！

昭和 51 年春より、全く暗中模索の中から宿泊研修所を再開いたしました。しかし、宿泊研修団体を受け入れるということは、「旅館業務」を始めるということです。従業員は私と家内の二人です。朝早く起きてお茶を沸かす、トイレの掃除、貸ぶとんの手配、お風呂の準備、その後の片付け、宿泊団体からのクレームの対応やら、戸惑うことばかりでした。夜は翌朝の研修講義の原稿書きに追われました。その結果は住職として僧侶として子を持つ親として、全てに不完全で中途半端でしたので、毎朝御本尊千手観音様に「懺悔！懺悔！」の繰り返しでした。

六、聖徳殿大盛況

聖徳殿はかつて宿泊研修を経験された方々の口コミで、全国各地から業種を問わず各企業の研修、各大学の合宿、武道、書道、美術、芸能、句会を始めとする文芸の集いなど、賑々しくお集りいただきました。やはり全山を国定公園に、参道はすべて東海自然歩道に指定され、静寂な山寺というのが聖徳殿の付加価値でしたので、どの団体様にもご好評を戴きました。また聖徳殿開設の本来の青少年育成の場として各団体からお集りいただきました。殊の外、県下各市町村の青年会議所の皆様には、頻繁にご利用いただきました。甲子園を目指す某名門校の合宿など懐かしく思い出されます。

当山は真言宗智山派の寺院ですので、智山派の各種の全国大会、また宗派を超えての全国大会も多数開催されました。

七、宿泊研修所の役割を終える

しかし、昭和から平成へと変わる頃には、各地に最新の設備の整った研修センターができ、聖徳殿はそれにとって代われ、徐々に稼働率は低下しました。平成 10 年に本来の宿泊研修所としての機能を、平成 20 年には日帰り研修所としての機能も閉じさせていただきました。この聖徳殿は文化的、社会的にも十分その役割を果たしたと思ったからです。それ以後は寂光院の月例行事である「やすらぎ説法」、「お写経会」、「写仏教室」、「講演会」など本来の寺院活動の場として今に至っています。

八、ただただ感謝！感謝！です

私が寂光院に普山して初めての仕事が聖徳殿の大改修でした。そして宿泊研修所の再開でした。多種多様な研修団体をお迎えしましたが、私は会場主としてすべての研修会に関わらせて戴きました。お蔭様で大変鍛えられました。得難い人脈も広がりました。これこそ、私の人生の大きな財産となりました。感謝しても感謝しきれるものではありません。

九、100 年の間、聖徳殿・報恩殿ありがとう！

大正 10 年に建立された聖徳殿は昭和 50 年に大改修されました。しかしそれからまた丁度 50 年目を迎えます。今また大改修を余儀なくされるほどあちこちの損傷は甚だしい限りです。今度は規模も昭和 50 年の大改修の比ではありません。

築 100 年ですから当然耐震基準は満たしておりません。さらに聖徳殿は崖の上にあります。一旦災害に見舞われて倒壊すると即、犬山市道に崩れ落ち、崖条例にも抵触します。また急な山肌に沿ってできている建物ですから、館内の移動に際しても犬山城のように上がり下りが大変で、ご年配の方、足のご不自由な方には全く不向きです。

十、聖徳殿・報恩殿 2 棟を解体処分

私も 76 歳、後期高齢者となりました。寂光院への普山が 26 歳でしたので、住職歴 50 年です。次世代に負の遺産は残せません。責任の重さを痛感いたします。後顧の憂いの無いように、この度聖徳殿・報恩殿 2 棟の解体処分を決定致しました。しかし、聖徳殿並びに報恩殿は木造 3 階建てです。規模も広大です。解体するにしてもそれだけで莫大な費用を要します。新たに再建するにしてもよほど規模を縮小せざるを得ません。

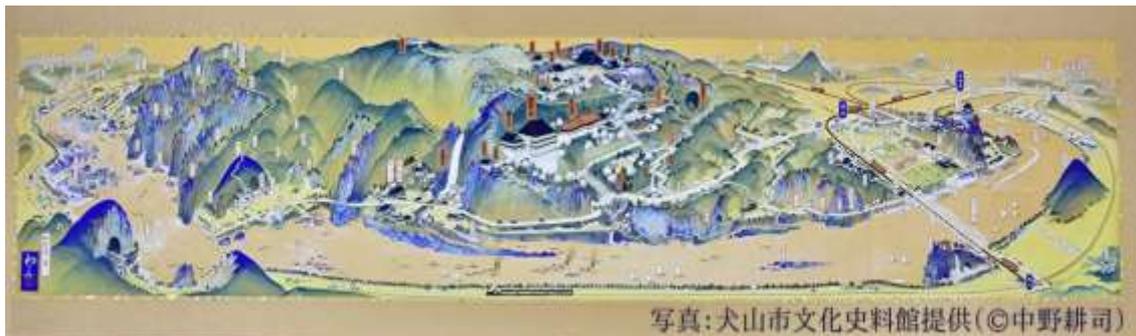
しかし、創建時の山主岩田大法大僧正の崇高なるお志を伝承し、御本尊聖徳太子からお徳を戴かれた数多くの皆様方の想いを無にすることなく、いずれ新たに聖徳殿を再建する決意でございます。

関係各位には長い間聖徳殿を身近にして戴きありがとうございました。

合掌

継鹿尾山図 吉田初三郎作（昭和5年）犬山市文化財指定

（全体）



（寂光院部分拡大）



2. 聖徳殿のこれまで

- 建立 1924年（大正13年） 聖徳太子1300年御遠忌記念
- 大正13年は「甲子ご本尊千手観音大開帳」
- 当山第21世岩田大法大僧正 聖徳太子の篤信
- 「17条憲法」1.以和為貴、2.篤敬三宝 の布教 研修道場
- 戦前 愛知師範学校（現愛知教育大学）付属小学校 疎開校
- 戦前戦後 青年団の拠点
春日一幸、塚本三郎、今枝敬雄、など輩出
- 昭和34年 伊勢湾台風被害甚大
以後、雨漏り他改修不完全のため聖徳殿閉鎖
- 昭和48年 現住 松平實胤 晋山
- 昭和49年 聖徳殿改修発願
- 昭和50年 聖徳殿改修落慶 宿泊研修所として再開
- 昭和51年 愛知県小型自動車整備組合150人を始め新入社員研修会
豊田合成(株)、松下電工(株)、シャープ(株)、大和屋守口漬(株)、
名古屋青年会議所はじめ各地の青年会議所
名古屋南ロータリークラブをはじめ各ロータリークラブ、
名古屋名城ライオンズクラブをはじめ各ライオンズクラブ、
名古屋丸八会をはじめ名門クラブ、
小牧応時中学はじめ、
小中学生徒の一日研修、
名古屋市民大学講座はじめ各地市民講座、
宏道書会をはじめ練成会、
東京仏教青年会・真言宗智山青年会等の結集、
※バブル崩壊以後、研修会、ことのほか宿泊研修会激減。
- 平成12年 精進料理の出店
- 平成13年 とろろ汁「つが尾」開店
- 平成14年 秋、閉店
以後、月例行事の写経会、写仏会、「やすらぎ説法」、
春秋彼岸会、施餓鬼会等の行事に使用

3. 研修道場・聖徳殿の各部屋

玄関



内陣



本尊 聖徳太子・孝養像

聖徳太子が16歳の時、父親である用明天皇の病氣平癒を祈願されているお姿



2階 120 畳敷大広間



1階 (60畳)



2階小間 (8畳)



和を以て貴しと為す
昭和5年当時の四天王寺管長様の揮毫

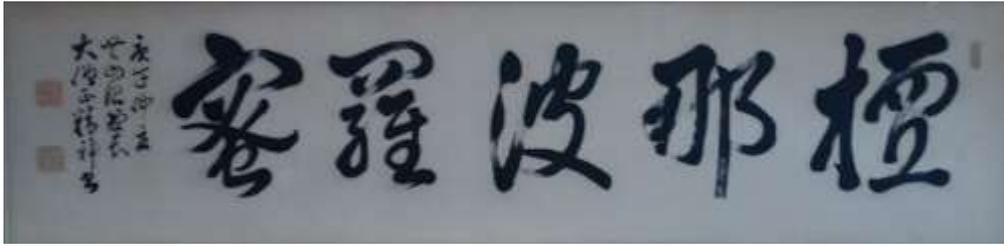


篤く三宝を敬え
法隆寺管長「佐伯定胤」師の揮毫



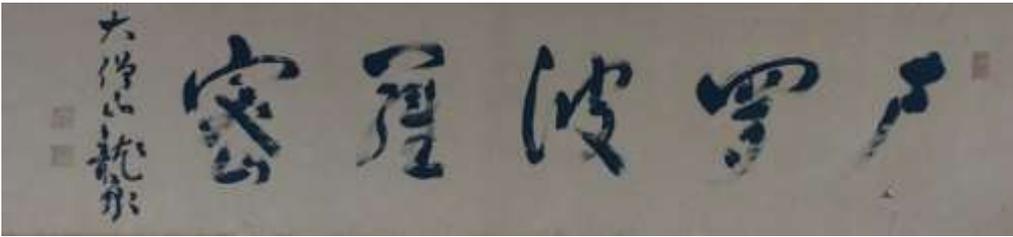
六波羅蜜

①

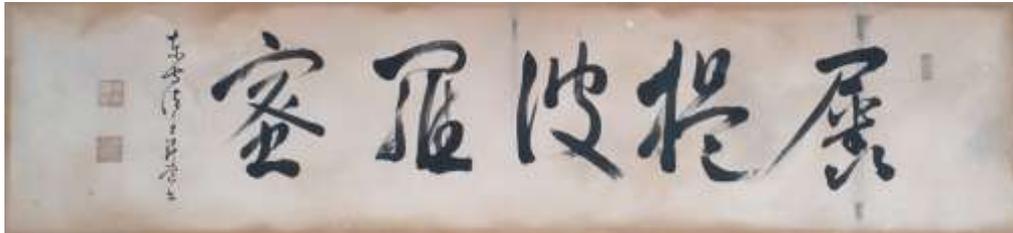


①真言宗豊山派管長 加藤精神 大僧正筆

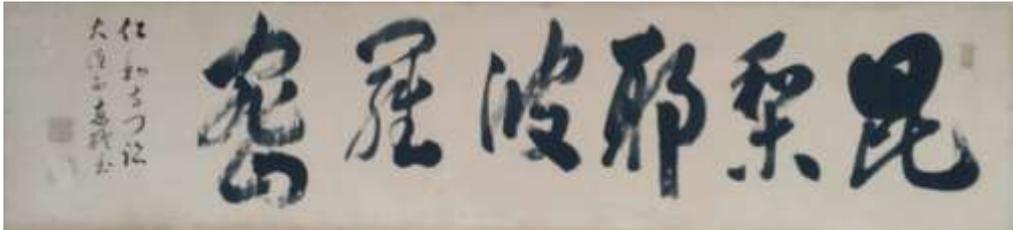
②



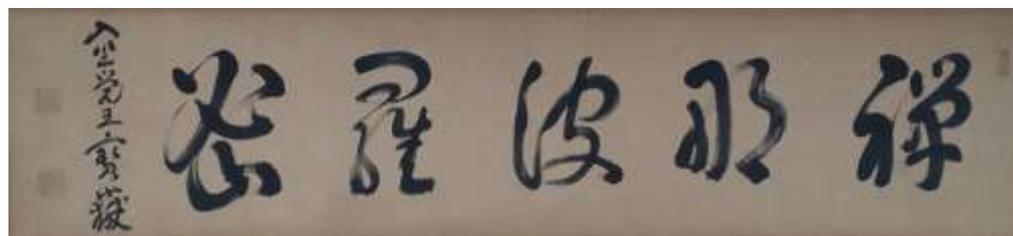
③



④



⑤



⑥



⑥真言宗智山派管長 滝 承天 大僧正筆

生活のきまり

継鹿尾山 寂光院

研修施設 聖徳殿

当山は真言宗智山派継鹿尾山寂光院と号し、千手観音を御本尊とする尾張三十三所第二十番札所です。当山は、白雉五年(654年)に孝徳天皇の勅願寺として南都元興寺道昭和尚により創建された愛知県下最古の千手観音霊場です。また、当山全域は飛騨木曾川国定公園であり、参道は凡て東海自然歩道になっております。

当研修施設聖徳殿は地上2階、地下1階、延 200余畳敷の建築で、当山第21世岩田大法大僧正の聖徳太子に対する篤い信仰と檀信徒の御支援により、聖徳太子の精神を基本理念とした一般青少年の為の研修道場として昭和のはじめに創設されました。その後、次第に老朽化し、昭和48年10月よりおよそ1年半の歳月をかけて大改修工事を施し、昭和50年2月に完成し、檀信徒の宗教施設として、また広く皆様の研修施設として御利用戴いております。

〈生活のきまり〉

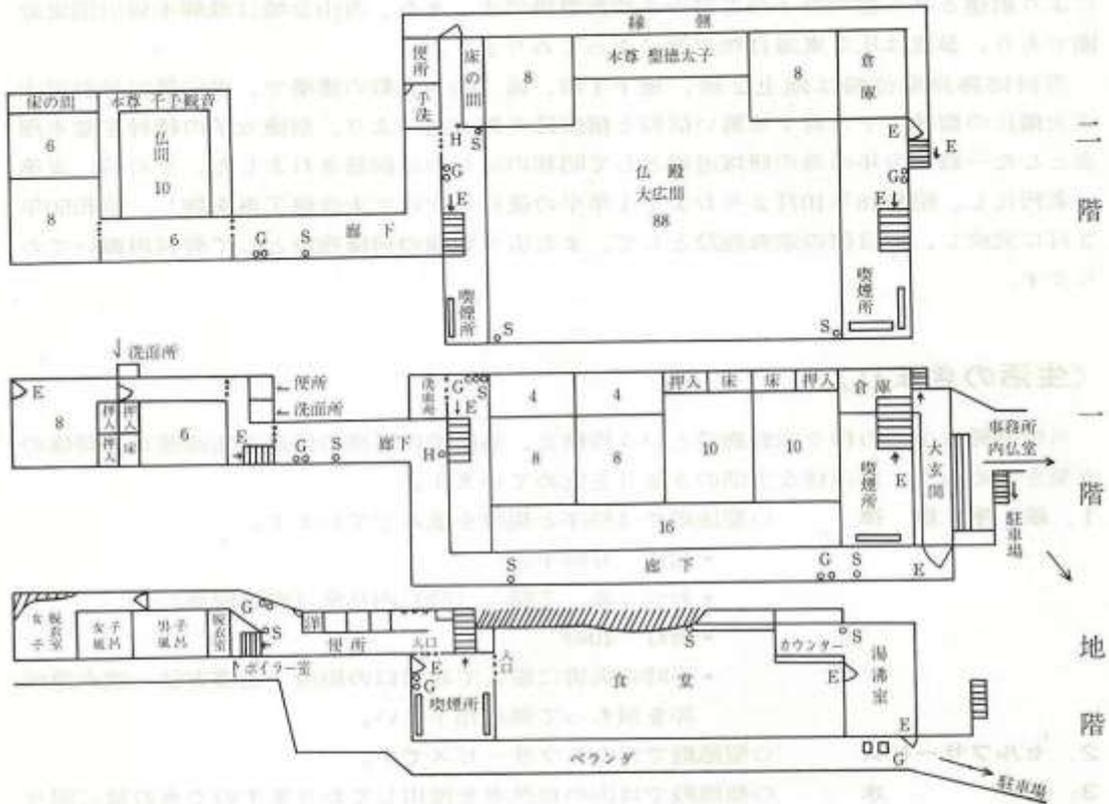
当聖徳殿は上記の様な宗教施設という性格と、当山での皆様の快適な生活並びに研修の成果を高める為、次の様な生活のきまりを定めています。

1. 秩序・規律 ○聖徳殿では秩序と規律を重んじています。
 - ・起床 6時半迄に
 - ・おつとめ 7時 (於)内仏堂(参加随意)
 - ・消灯 10時
 - ・不時の災害に備えて非常口の場所・誘導方法・消火設備等を前もって御承知下さい。
2. セルフサービス ○聖徳殿ではセルフサービスです。
3. 節水 ○聖徳殿では山の自然水を使用しておりますので水の量に限りがあり、節水に心掛けています。
4. 清掃美化 ○聖徳殿では美化に心掛けています。
 - ・毎朝各自分担清掃
 - ・ゴミは必ずゴミ箱へ
 - ・ゴミ箱が一杯になりましたら食堂脇ベランダの大きいゴミ箱へ
5. 禁酒 ○聖徳殿では禁酒です。
6. 禁煙 ○聖徳殿では喫煙所以外は禁煙です。
 - ・喫煙は必ず喫煙所で!!
7. 自然保護 ○当山全域は飛騨木曾川国定公園内にあり、参道は東海自然歩道です。従って当山では自然保護を重視し、一木一草から鳥獣、昆虫に至る迄、採集捕獲は厳に禁じられています。
(※山歩きの際にはハチ・マムシ・ムカア等に御注意下さい)
8. その他 ○夜間は虫が入りますので網戸の開閉は御遠慮下さい。
○その他、お気付の点は事務所迄お申出下さい。

報恩殿・聖徳殿の平面図

報恩殿 平面図

聖徳殿 平面図



略号表

- E 非常口・非常階段
- H 火災報知機
- S 火災消火器
- G ゴミ箱
- 数字 畳数

継鹿尾山 寂光院

愛知県犬山市大字継鹿尾字杉之段12 電話 (0568) 61-0035 〒484

4. 聖徳殿・お別れ講演会 (2022年11月13日)

中日新聞社 前社長・主筆 小出宣昭 氏



5. 月例行事

写佛教室 (第3土曜日)

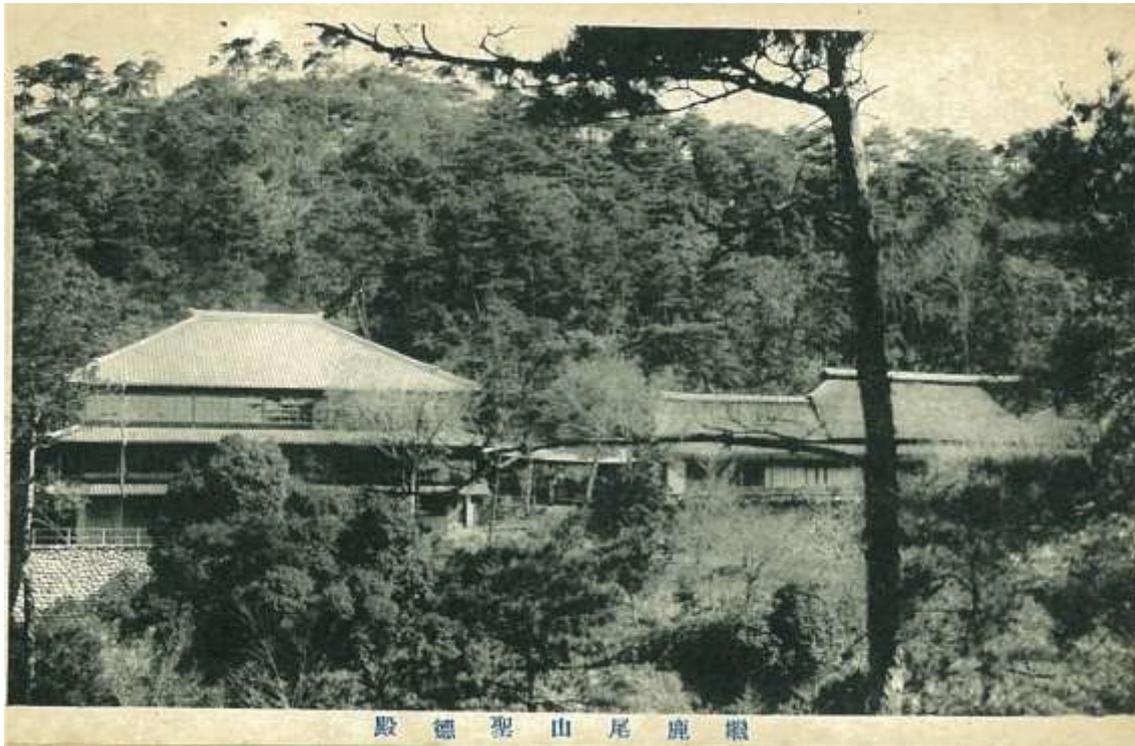


お写経 (第2、第4日曜日)



創建当時の絵葉書

左：聖徳殿 右：庫裏



本堂



七福坂から眺めた聖徳殿（手前）と報恩殿（奥）



座禅石（報恩殿の裏）から眺めた木曾川下流

